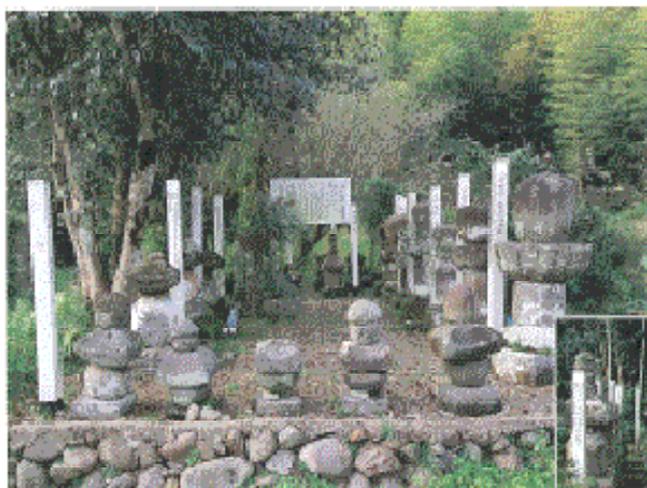


鶴田町大願寺跡墓塔群（開山堂跡・薬師堂跡）

【所在地】薩摩郡薩摩町柏原字上大願寺 2636 及び 2630

【種別】県指定史跡

【指定年月日】昭和 62 年 3 月 16 日



開山堂跡



薬師堂跡

大願寺（天台宗 臨濟宗）は、鎌倉時代後半から地頭としてこの地に定住し、勢力を拡げた祁答院氏の菩提寺であったことから、寺跡には開山堂跡と薬師堂跡があり、祁答院氏歴代の墓塔，供養塔や住職の墓塔が多くたてられている。大願寺は江戸時代の初期，鹿児島藩主島津光久のとき鹿児島城下に移され，やがて南泉院と改称され，現地鶴田町柏原では廃寺化していった。

開山堂跡には，祁答院 4 代平次郎行重（行意），5 代二郎左衛門尉重実（行祖）の墓塔をはじめ，亨徳 2（1453）年・永正 12（1515）年・天正 6（1578）年・慶長 16（1611）年などの刻銘のある墓塔が約 20 基ほどある。

薬師堂跡には，祁答院氏 7 代重茂（行誉）・8 代久重（行勇）・9 代徳重（行仙）・11 代重貴（行應）・12 代重武（行登）・13 代良重（行鉄）らの歴代領主の墓塔と大願寺歴代住職の墓塔合わせて約 40 基ある。

これらの墓塔群は関係文献（『祁答院記』、『斑目文書』、『祁答院旧記』、『五山文学新集』）等とあわせて，鹿児島県の中世の歴史を解明するうえで，重要な文化財である。